

環境心理生理運営委員会 議事録 2013 年度 第 4 回

文責 合掌

- A. 【日 時】 2014 年 2 月 21 日 金曜日 (17:30～19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、合掌頭(幹事)、
秋田剛、大井尚行、大石洋之、大野隆造、小島隆矢、土田義郎、
槇究、宗方淳 (順不同・敬称略)
- D. 【配布資料】 2013 年度 第 4 回環境心理生理運営委員会議事次第
*2013 年度 第 4 回環境工学本委員会議題
*2013 年度 第 4 回環境工学本委員会資料
*環境心理小委員会活動成果報告
*持続性社会の環境心理小委員会活動報告
*心理生理のフロンティア小委員会活動報告
*オンラインストレージサーバよりデータ配布

E. 【報告事項】

1. 2013 年度 第 3 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

先回議事録(案)の確認を行い、承認された。

2. 2013 年度 第 4 回環境工学委員会の報告

第 4 回環境工学委員会の内容に関して、特に本運営委員会に関連の深い事項について松原主査から報告があった。

■ 2013 年度日本建築学会大会 (北海道) 概要報告

発表題数は 7197 題、のべ参加者数は約 1 万 5 千人であった。OS は 115 題、登録者は約 9 千 8 百人であった。環境工学部門の研究協議会は 150 人の参加があった。大会全体の発表欠席率は 3.8%であった。発表登録費の未納者リストが提示された。

■ AIJ デジタルライブラリーについて

2013 年度の環境工学部門の大会研究集会資料について、残部がある事から 1 年後に公開する事とした。

■ 2014 年度大会学術講演会プログラム編成会議委員の選任について

プログラム編成会議は 4 月 22 日に行われる予定であり、関東方面の委員を中心に出席してもらう予定であったが、この時期に照明関連の国際会議が行われることから出席できない委員が多いとの事であったため、場合によっては地方の委員に出席してもらうこととした。

■ 本会刊行物の英文版発行促進について

積極的に推進するために、ネイティブチェック等の一部費用を 1 刊行物あたり 50 万円まで補助する。希望する委員会は申請書を提出する。出版物は原則として PDF の有料ダウンロード配信とし (出版社が入っているもの場合はその限りではない)、また著作権法上の問題から同じメンバーで作業を行うこととする。また、この報告に関連して中国

語版・韓国語版についても議論となり、中国語版は多数発行されているとの事であった。

■ 竹中育英会研究助成について

2013年度は環境工学から3名の交付者。2014年度は3月末がメ切。

■ 2014年度特別研究テーマ、若手奨励特別研究テーマ選考結果について

環境系からは若手奨励で、都市空間の大気汚染のテーマが採択された。

■ 2014年度技術部門設計競技について

構造委員会からの課題となった。環境工学委員会からの提案は2009年以降出ていないが、これに関して心理生理からは「可愛い建築」があるのではないかと、この意見があった。

■ 会員外委員への入会促進について

■ 震災復興WGについて

報告書の原稿について、まだ半分ぐらいしか集まっていない状況である事が楨委員より紹介された。2/3に除染対策に関する空気環境運営委員会主催のシンポジウムが開催された事が報告された。

■ 第27回環境工学連合講演会について

5/12に開催される。環境工学からは吉野先生、佐土原先生が講演される。例年参加者が少ないので、できるだけ呼びかけて欲しい、とのこと。

■ 論文集委員会・技術報告集委員会委員について

来年度の新任委員は環境心理生理からはいない。

■ 2014年度環境工学部門研究協議会・研究懇談会について

資料が提示された。懇談会は「今後の環境工学を担う若手研究者-私の研究スタイル」と題して、2009～2011年に奨励賞を受賞した方が登壇される。2015年度は、2012～2014年度の受賞者の予定。

■ 2014年度環境工学懇親会について

実施案が提示された。

■ 2014年度大会における若手奨励について

行う場合には3月までにルールを決める必要がある。基本的に部門毎であり、「賞」という言葉は使えない。

■ 建築学会環境基準(AIJES)について

制定から5年を経過する「建物運用時に発生するごみのリサイクル推進に寄与する建築計画とごみ処理システムに関するガイドライン」について、改訂は行わない事とした。一方、音の分野では環境基準の内容に対して、批判的な意見があった事が紹介された。

■ 催し物実施報告、実施計画について

1/14開催のシンポジウム「心理生理のフロンティアを語る」の実施報告書が確認された。

■ 委員の委嘱について

土田先生(金沢工業大学)、竹村先生(大同大学)の環境心理小委員会チュートリアル運営委員会委員の委嘱が承認された。

■ 2013年度予算使用状況について

環境工学委員会全体で使用率が 56%（基本部門）、36%（研究部門）であった。

F. 【審議事項】

1. 各小委員会の活動報告

各小委員会主査が 2013 年度の活動成果報告を行った。

○ 環境心理小委員会（主査：楨委員）

各 WG が 3~4 回開催された。具体的にはチュートリアルを開催や大会発表論文のレビュー、「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する WG ではデジタル機関誌の発刊、見学会、講演会を行った。また、大石先生を「可愛い」WG の委員として委嘱する事が提案され、承認された。

○ 持続性社会の環境心理小委員会（主査：宗方委員）

5 回の小委員会を開催した。また、2 件の Web 調査を実施しており、今後論文投稿も考えられる。今後もっと若い人に委員として入ってもらいたい。報告に対して、出席が少ない委員に出席を促す必要があるのではないか、との意見があった。

○ 心理生理のフロンティア小委員会（主査：土田委員）

1/11 に第 1 回シンポジウムを開催した。今後の登壇者やシンポの時期（ターゲットとする聴衆による）、チュートリアル WG との連携（USTREAM 配信？）等について意見交換を行った。また、シンポジウムの会告に司会等の氏名を入れてほしいとの要望があった。

2. 若手のための優秀発表賞について

大会発表を対象とした若手の優秀発表賞のルールについて、他分野の資料を参考に議論を行い、以下のようにまとめられた。

名称：日本建築学会 環境心理生理部門 若手優秀発表顕彰

目的：若手・学生による研究の奨励し、環境心理生理分野の更なる発展に資する

審査委員：環境心理生理運営委員会委員および運営委員会が依頼した者

審査基準：(1)研究内容、(2)プレゼンテーション、(3)質疑等の受け答え、の内容を総合的に判断する。

審査方法：

◎：特に傑出している

○：10 件に 1 程度に相当する。

△：優れているが、10 件に 1 程度にはやや届かない。

審査結果を環境心理生理運営委員会が集約し、推薦候補者を決定する。

名称については「賞」という言葉が使用できないため、「表彰（仮）」や「顕彰」、「優秀発表」、「メダル」、「アワード」等の意見が出され、今後、学会あるいは環境工学委員会の統一案が出された時点で検討する事とした。表彰対象者数は有資格者の 1~2 割程度とし、また有資格者の範囲は年齢で区切るのではなく、「研究経歴が短い」ことも考慮し「若手・学

生」とした(大学院修了から4~5年程度のイメージ)。審査方法は「建築歴史・意匠」部門・「建築社会システム」部門の表現を参考に、各発表を3段階で評価した結果を運営委員会で集約し、審査委員のコメントも参考に候補者を決定することとした。

3. 2014年度建築学会大会のOSについて

申し込みのメ切は2/28であり、現時点で3名の委員が申し込む予定であるとの事であった。

4. 研究倫理について

実験や調査を行う際の研究倫理について、学会で基準があった方がよいのではないか、との提案が小島委員よりあった。その後、委員の所属する大学での倫理規程の状況が紹介され、学会基準をどこで作成するか(環境心理生理運営委員会・学術推進・特別研究会)や内容(「仕様規程では無く性能規程を」「ミニマムなものを)」について議論を行った。

G. 【次回の開催日程】

未定(おそらく第1回環境工学本委員会と同一日程)